

はじめに

基本的な視角： 近代化と植民地主義

松尾尊兌（まつお・たかよし）「内には立憲主義、外には帝国主義」『大正デモクラシー』

フランス革命の人権宣言（1793 年）「内には市民社会、外には植民地主義」

文明化の使命（Civilizing Mission）

キリスト教化の使命（Mission）： Student Volunteer Movement

Robert Speer 「今世紀（19 世紀）中の全世界のキリスト教化」

近代の明暗（解放と抑圧）

1 前史

どこから日韓・日朝関係がおおきく変質するのか。

日露戦争後の第二次日韓協約による大韓帝国の保護国化。

内村鑑三「朝鮮の独立はかえって危うくなった」（『聖書の研究』）1904 年

第二次日韓協約（1905） 韓国の保護国化、外交権の喪失

国際法的にみて合法か違法か？論争。

統監府が設置（1906） 初代統監 伊藤博文

第三次日韓協約（1907.7.24） 統監は法令の制定、翌月韓国軍の解散

義兵闘争（義兵戦争）の激化

愛国啓蒙運動・教育救国運動

カトリック教徒・安重根の伊藤博文殺害（1909）

20 世紀初頭のキリスト教

初期伝道の成果が平壤を中心とした西北地方で結実していく。

William Baird 崇実学堂（1897） 連合崇実大学（1906 年、08 年に政府より大学認可）

「日本人の流入による新たな状況の出現が（教派連合の）必要性をさらに高めている
- 中略 - 日本人が及ぼす影響は反宣教師であり、反キリスト教的である。- 中略 - 教育を受けなければ朝鮮人はこの新たな影響に対して立ち向かうことはできない」（1905 年 9 月 15 日書簡）

1909 年における米国北長老派の政治状況に関する見解

Arthur Judson Brown Royal Recognition 統治権力に対する認知と革命における態度

2 「韓国併合」後の植民地主義とキリスト教

・105 人事件（「寺内総督暗殺未遂事件」）

捏造事件の目的：キリスト教勢力（新民会）とミッションスクールに対す弾圧
最初の大規模な弾圧事件がキリスト教勢力であった。

法曹界の重鎮・渡辺暢の仲介、ロンドンとニューヨーク 事件の国際化の阻止

・朝鮮に一つの連合大学構想（1912）

平壤 VS. ソウル

Chosen Christian College(1915、)延禧専門学校(1917)：朝鮮教育令に大学令が不在

・改正私立学校規則（1915） Arthur J. Brown と小松緑（外事局長）の論争 文部省訓令 12 号の植民地主義的な焼き直し W. M. Imbrie 井深梶之助との連携 ミッションスクールへの明白な弾圧

・2・8 独立運動と 3・1 独立運動

アメリカ・上海・東京・植民地朝鮮のネットワーク

第一次世界大戦後の新秩序 Self Determination 「民族自決」

「武断統治」から「文化政治」 学務局に「宗教課設置」キリスト教対策

李承晩、日本は「プロシア型の専制国家」、日本の後発性を指摘

Park College 留学生声明 Kim So Bang 文章

エドワード・サイード『文化と帝国主義』「帝国主義の果実から帝国主義を批判する」

2・8 独立宣言書、3・1 独立宣言文から考える

柳宗悦「朝鮮人を思う」

・心の内面への浸食としての神社参拝問題

McCune の良心が浸食される思い

Holdcroft と Underwood の論争と対立 ファンダメンタリスト論争の影響

長老派ミッションスクール自主閉校への過程

・朝鮮人キリスト者の群像

尹致昊

李昇薫

金錫昌

金昌俊

李省展『アメリカ人宣教師と朝鮮の近代』社会評論、2006 年。

李省展「米国北長老派海外宣教本部の東アジア認識と 105 人事件」『キリスト教史学』第 67 集、2013 年。

李省展「植民地期朝鮮における『信教の自由』」『富坂キリスト教センター紀要』第 8 号、2018 年、3 月。